

寝取主義者の
花嫁弄り!

～ 婚約者が自分の手で囓ぐのを見貴は知らない ～

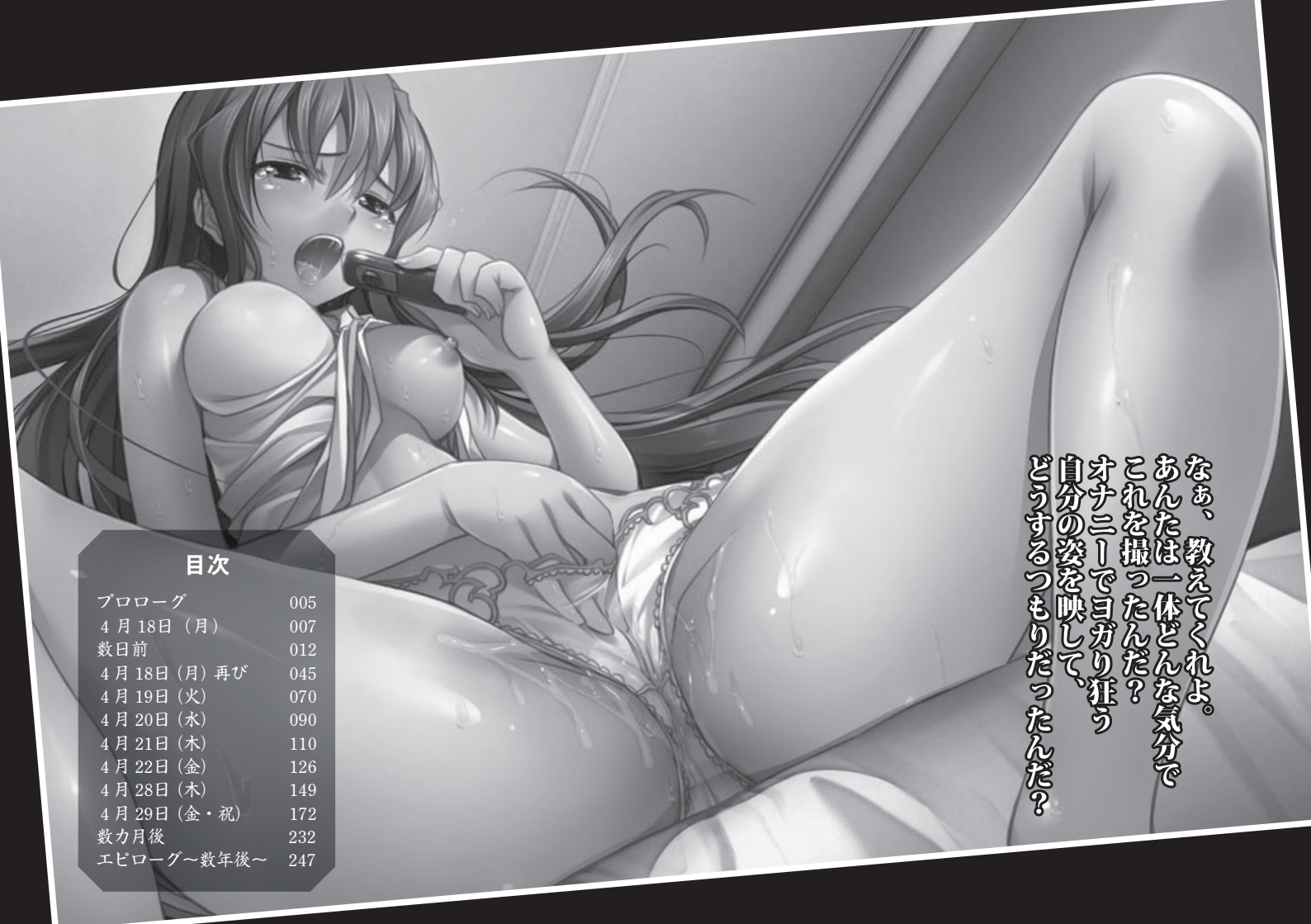
著 田中珠

画 みかづきあきら!

原作 ソフトさ～くるクレージュ



ふちばら文庫



なあ、教えてくれよ。
あんたは一体どんな気分で
これを撮ったんだ？
オナニーでヨガリ狂う
自分の姿を映して、
どうするつもりだったんだ？

目次

プロローグ	005
4月18日(月)	007
数日前	012
4月18日(月) 再び	045
4月19日(火)	070
4月20日(水)	090
4月21日(木)	110
4月22日(金)	126
4月28日(木)	149
4月29日(金・祝)	172
数カ月後	232
エピローグ～数年後～	247

こんなことつ恥ずかしくて、わたし……私っ」
 「恥ずかしくてビクビクしちゃうよねえ……美春ちゃん。今からこのチンポで、美春ちゃんのことを気持ち良くしてあげるからね」
 気兼ねなくいきり立った肉棒を昼間の公園の中で剥き出しにした康平に、美春はギョツとした表情をする。

「……っ、そ、んな……っ、こんなところで、そ、その……出したりして、誰かに見られたりしたら、どうするんですか……っ?!」

「いいんじゃない……? 別にいい。見られたって減るモンじゃなし、見たいなら見せつけやろうよ」

「わ、たし……私はそんな……っ、——っ、はああああ……っ、ああ……んん……っ!」

康平は早くも肉棒の先端で美春の女性器をチユクチユクと弄り始める。

今までであればまだ乾いているはずのそこは、既に少しずつ愛液が滲み出ていた。

「美春ちゃんも、恥ずかしがつても感じちゃってるんだねえ……。うれしいよ、どんどん美春ちゃんもエッチになつてくれる」

「うそ……っ、わ、わたしは……っただ、恥ずかしくて……死んじやいそうでっ、こんな思いをするんだったら、いつそのこと、もう……んんんっ」

今のところ周りに人の気配はない。だが曲がりなりにもここは公園だ。いつ誰かが遊び

に來たり、散歩に訪れたりしてもおかしくはない。

「や、やめて……っください、こ、んな……もう、もう本当に、誰か來たらと思うと、私っ、わたし本当にイヤでイヤで堪らないのっ」

「そのイヤよイヤよが、そのうちこれ以上ないっつう快楽に繋がるんだ。さあて……一緒に気持ち良くなろうぜえっ」

「——っ、んぐ、ふうああああ……っ! ああああああ……っ! いやあ、イヤああ……っ!」ズブリといきなり奥まで押し込まれた肉棒が、美春の膣内を穿つ。

そこそこに愛液で潤っていたそこは、すんなり太く大きい肉棒を受け入れた。

「……や、やえ……てえええ……っ、んっく、あああんっ、はああ、ああ……っ、こ、んなのっ、恥ずかしくて、イヤで……っ、ホントにもうううっ」

身体をよじって逃げようとする美春だが、完全に締まった荒縄はギチギチと音を立てて、更にキツく美春を拘束していく。

「んくっ、こ、んな……こんなことっ、本当にイヤなのにつ、どうして……あああああっ」

「俺は俺のやりたいようにやってるだけさ。誰にも何にも縛られない。美春ちゃんもそうしたいだろ? こうやって気持ち良くなりたいだろ?」

「わ、わたしはそんな……っ、こんな外でなんて、ふ、普通じゃないわ……っ、こんなこと私はしたいなんて思ってないっ、考えたことないものっ」

「へええ……じゃあさ。美春ちゃんの考えてる普通って、どんなこと？」
荒縄への無駄な抵抗で急激に失われていく体力。やがて美春は荒くなってしまう息遣いに、色のこもった声を漏らしていた。

「んああああっ、ふ、ふっう……っ、わたし、私は……健一さん、健一さんと幸せな家庭を築いて……っ、んああああああああっ!!」

「好きでもない男に無理矢理犯されて感じちやうのが普通なのか？　ほとんど開発されてもないアナルで、ビクビク快感を感じるのが普通か？」

これまでの恥ずかしい行為を思い出させるように康平は、背けようとする美春の顔を手でしっかりと押さえつけ、美春の目を覗き込みながら言う。

「わ、私はそんなこと……うう……っ、だめっ、そんな、奥に動かないでえええ……っ」
「それとも、こうやって真っ昼間の公園でアンアン喘ぐのが普通か?！」

一度、膣の奥まで肉棒を貫き穿ってやると、美春は息を詰まらせた。そんなガクガクと震える美春の耳をそっと噛んで、小さく囁いてやる。

「そんな風にしても、本当はすっごく……気持よくなっちゃってるんだろ？」

「そ、そんなことないっ……私、気持ち良くなんかつ、あぐっ、うごかないでえ……」

ギンギンと美春の頭の上で雲梯に固定された両手が、荒縄に食い込まれて音を立てる。

「……あ、たし、わたし……っ、だめ……ダメなお……っ、ジツとし、してえ……、じ

やないとこんな……こんな外でなのに、それなのにわたし、私っっ」

恥ずかしいはずなのに、痛いはずなのに……美春の膣奥からは愛液が溢れ出ていた。

「あああああ……っ！　わたし、どうして……どうしてこんな、ことされてるのにいっ」

もう美春は気づいてしまっていた。

恥ずかしさと嫌だという気持ちの中に、快感が混ざっていることに。

「だめ、ダメえ……っ、んあ、はああっ、もうやめて、やめてええ……っ！　おかしくなっちやうっ、こんなのっ、わたしおかしくなっちやうよおっ」

「いいじゃない……おかしくなっちやおうよ。それとも、美春ちゃんは気持ちいいことが嫌いだったりするわけ？」

「んああああっ、そんなこと、で、でもっ、でもこれはそんな、わたしの思いとは……っ」
美春の言葉はそれ以上続かなかった。康平のストロークがより深く激しくなったからだ。

「んはああああああっ！　つくうううっ！　だめっ、そこ……そこはああああああっ！」

もう女性器から流れ落ちる愛液は隠しようがない。康平が肉棒で貫くたびに、いやらしい美春の汁が地面の砂に垂れていく。

「い、いやあ……っ、こん、な……こんなわたし、私じゃないよお……っ、こんなことされて、誰に見られてるかも分からない外でこんなこと……っ」

美春にとっては、もちろん初めての青姦。それでもこの異常な状況に疼いてしまう自分

の身体がうらめしかった。

「それなのに……どうして、どうして私の身体……っ、こ、こんなに……っ、こんなに
もお、ああああああんっ！ んはあ、はううううあうっ」

「それもまたスリルがあつて楽しいよな……。もうドキドキして、ゾクゾクして堪らない
だろ？ 快感なんだろう？」

「あんっ、こんなのお、おかしいっ、わからない……分からないよお、わたしいいっ」
だんだんと美春の頭に快楽という霞がかかってくる。同時に、頬を染めたその表情も、
うっとりとしたものに変化する。

「こ、こん……なあ、きもち、気持ち良くなっちゃ、いけないのに……っ、でもっ、それ
でもこんなの……っ、わたし我慢出来ないよおおっ」

「何にも我慢なんてすることないぜ。気持ちいいんだろ？ それでいいじゃねえか、いや
らしい美春ちゃん」

まるで唇を奪うほどまでに顔を近づけて、康平は冷たい視線をぶつけた。

「……よくないよお……っ、こんなの私じゃ……っ、わたしじゃな——っ!! ああっ」

さつきまで赤かった美春の顔が、少しだけ青ざめた。そしてその顔は康平のことを見て
はおらず、その後ろを見ているようだった。

「こ、う……へい、さん……、あ、あれ……っ、あそこに……っ、やあ、いやあああ……」



ぶちばら文庫

寝取主義者の花嫁弄り!

2011年 12月22日 初版第1刷発行

■著 者 田中珠
■イラスト みかづきあきら!
■原 作 クレージュ

発行人：久保田裕
発行元：株式会社パラダイム
〒166-0011
東京都杉並区梅里2-40-19
ワールドビル202
TEL 03-5306-6921

印刷所：中央精版印刷株式会社

本書の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などを行うことは、
かたくお断りいたします。

落丁・乱丁はお取り替えいたします。

定価はカバーに表示してあります。

©TAMA TANAKA ©ソフトさ〜くるクレージュ

Printed in Japan 2011

PP036

好評発売中



ずっと怪えて
欲しかった!

幼なじみの
お口は悪人。



ふえら
ふえちん!
Fella-Fetish

ぶちばら文庫24
夜空野ねこ 著
にの子 画
Parthenon 原作
定価 670円(税込)



催眠シリーズ第3弾!

ぶちばら文庫22

春風菜 著

水原優 蜜キング 画

Parthenon 原作

定価 670円(税込)

魔眼カメラに心を奪われ、
言いなりに自慰する美処女の記録…。

好評発売中

写し撮れば、
少女を支配する!

Temptation
NAKED

デンプテーション
ネイキッド

ぷちぱら文庫は ライター&イラストレーターを募集中です!

「ぷちぱら文庫」シリーズを盛り上げる、新たな作家を募集いたします。「ぷちぱら文庫」は、ゲームノベライズだけでなく、オリジナル創作による美少女小説も刊行予定です。

応募規定は、それぞれ以下ようになります。

皆様のご応募をお待ちしております!

1. 募集内容

「ぷちぱら文庫」シリーズでは、美少女ゲームやライトノベルを好む読者層へ向けた作品作りを目指しています。ご応募いただく場合も、ヒロインの個性や魅力が伝わるようなもの、シチュエーションへのこだわりが感じられるものなど、はっきりしたテーマのある作品でお願いいたします。題材はとくに限定していません。発表済か、未発表作品かも問いません。

2. 送付方法

小説の場合は、テキストデータをメールでご応募ください。コミックやイラストは、原稿用紙をお送りいただいても、データをお送りいただいても結構です。データが5MB以上の場合は、ファイル転送サービスなどをご利用ください。コミックには枚数の規定はありません。小説は1ページを17行×40文字として、50ページ以上の作品をお送りください。

3. 選考結果などについて

メールでご応募いただいた場合は、着信のご連絡は必ず行っています。選考は随時行っており、締め切りはとくにございません。選考終了後、採用の方にのみ別途お返事をしております。通常はお返事までに、2週間~1か月ほどお時間がかかります。

4. 作品の送付先

ご郵送の場合は下記住所までお送りください。メールでのご応募は以下のアドレスで受け付けております。どちらの場合も必ず「お名前、年齢、ご職業、ご住所、電話番号」を書いた紙を同封するか、明記してください。

メールの宛先: desk@parabook.co.jp

〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-19 ワールドビル202
株式会社パラダイム 「ぷちぱら文庫作品応募」係

※ご応募の際の個人情報、選考結果のご連絡にのみ使用いたします。

作品のご返却を希望の場合は、宛名を書いた返信用封筒と切手を同封してください。